

Mobility For ALL 社会実験当日ボランティア

募集要項

「Mobility for ALL ～移動の可能性を全ての人に」は、最新のテクノロジーとソリューションにより障害のある方もカーレースを楽しめるようにするための社会実験コンテストです。視覚や聴覚を補助するツールや遠隔でレースを体感できるツールなど最新技術によるソリューションを体験できる貴重な機会です。本コンテストに関心を持ってくださいの方のご応募をお待ちしております。

募集趣旨	一般財団法人トヨタモビリティ基金は、障がいの有無にかかわらず誰もがモータースポーツ観戦を楽しめるためのソリューションを募集するコンテスト「Mobility for ALL ～移動の可能性を全ての人に」を開催しています。今回、一次選考を通過した 18 チームによる最新のソリューションを体験し評価する実証実験を、岡山国際サーキットで実施することとなりました。本実証実験の実施にあたり、被験者として最新のソリューションを体験する障がいがある方をサポートし、会場での移動やソリューションの体験に一緒に取り組んでくださるボランティアの方を募集します。
日時／会場	1 日目：令和 4 年 10 月 15 日（土） ※2 拠点で同時開催します。 岡山国際サーキット（美作市） 11：00～17：00 プラットポート（津山市） 11：00～16：30 2 日目：令和 4 年 10 月 16 日（日） ※2 拠点で同時開催します。 岡山国際サーキット（美作市） 9：00～17：00 プラットポート（津山市） 11：00～17：30
活動内容	障害がある方が各ソリューションを会場で体験するサポートをしていただきます。 ①会場での移動や体験のサポート ②実証実験のアンケート回答サポート ③会場の設営や片付け ④その他、運営に関するサポート
対象	障がい者の社会参加に関心がある方、様々なソリューションを体験したい方 SNS 発信が得意な方、写真撮影が得意な方 の大学生、高校生など。 ※一日のみの参加も可能です
募集人数	岡山国際サーキット 30 名 プラットポート 10 名
その他	岡山駅発着で現地までボランティアバスを運行します。 午前～午後と参加くださる方には昼食を支給します。 ボランティア保険に運営側で加入します。

ご不明な点等ございましたら、お手数ですが下記の連絡先までお問い合わせください。

[お問い合わせ先]

Mobility for ALL 現地運営事務局：NPO 法人岡山 NPO センター（担当：大塚・西村）

〒700-0822 岡山市北区表町 1 丁目 4-64 上之町ビル 3 階

URL <http://www.npokayama.org>

TEL 086-224-0995 FAX 086-224-0997 E-mail npokayama@gmail.com

参考：当日に行われる実証実験一覧（全 18 チーム）

1. 外出時の不安を解決する。視覚障がい者ナビプロジェクト		株式会社 Ashirase	視覚障がい者が集まって外出する際の不安要素である「現地まで迷わず行けるか」、「現地で楽しめるか」といった課題の解決を目指す。当事者同士の待ち合わせのための機能や施設内ナビで不安を解消し、「行ってみよう」、「楽しかった」を実現する。
2. 「移動したい」を実現。空間認知を解決する五感 IoT		LOOVIC 株式会社	誰もがサーキットの魅力を感じられるようにするため、視空間認知障害の方でも五感を用いて移動が可能となる移動自立支援デバイス・サービスを開発する。
3. 遠隔アクセシブルレース観戦プロジェクト「Boooom!」		株式会社シアン	実物大映像投影でのレース会場再現や遠隔操作できるカメラ・ドローンを使用して、多様な方が遠隔でそれぞれ見たい視点からレースを観られる、快適で楽しい体験を提供する。
4. 訪問看護師の移動支援で、慢性的な看護師の人材不足問題を解決		株式会社 Cone・Xi & 一般社団法人 ソーシャルアクション機構（北嶋 史 営）	稼働していないデイスサービス等の車両を活用し、訪問看護師と在宅療養者の乗合い移動支援の実証を実施する。訪問看護業界に特化した新たな移動支援モデルを構築し作業コストを削減する。更に脱炭素な環境にも配慮したモデルの構築を目指す。
5. クロスラインー ボクらは違いと旅をする		株式会社 ePARA	多種多様な障がい当事者が e スポーツでコミュニティを形成し、レース場の旅を満喫する。ゲームで学んだレースを生観戦して感じる違い、様々な障がい当事者と交流して感じる違い、旅の後で気づく過去の自分との違い、そんな「違い」を楽しむ旅を共創する。
6. 視覚障がい者歩行支援アプリ「Eye Navi」でサーキット訪問支援		株式会社コンピュータサイエンス研究所	視覚障がい者歩行支援アプリ「Eye Navi」を使い、サーキット内施設までの歩行支援に挑戦する。人や物にぶつからないように注意喚起するとともに、メインスタンドやトイレ、レストラン等の施設情報を音声で伝えることで歩行支援をする。
7. 体感しよう、レーサーの興奮を。レーシングシミュレーター		テクノソール株式会社	車いすユーザーが本格的なレーシングシミュレーターを楽しめるシステムを開発し、「観るだけ」から「やってみる」へとレースの楽しみ方を広げる。実証当日は元 F3 レーサーの長屋宏和氏を含む、2 名の肢体不自由者によるデモンストレーションを実施予定
8. 独自の音響技術で、音と光と振動が連動する「共感グッズ for ALL」		エヴィクサー株式会社	音と光と振動が連動するグッズ（T シャツなど）上で音楽に合わせてデジタル花火が上がったり、グッズが音に合わせて振動したりすることで、障がい当事者だけではなく、参加者全員の共感を創出する。
9. Voice Watch -見る観戦から、聴く観戦へ-		株式会社電通	走行データと中継映像からレースの実況音声を実タイム生成する AI を開発し、視覚障がい者が現地でのレース観戦を耳で楽しめる「音声観戦体験」の実現に挑戦する。スポーツ観戦のバリアフリー化で、誰もがスポーツを楽しめる社会を目指す。
10. メタバースで会場に潜むハンディを探し出せ！		九工大学生プロジェクトすぐ創る課	メタバース上に現実のレース場のコピーを作り出し、そこへ AI 技術を適用することで会場に潜むハンディを見つけ出す。さらに、VR 技術を用いてメタバース空間上にアクセスすることで、当事者の「初めて行く不安」を取り除いていく。
11. モータースポーツの音を振動と光に変換して提供するシステム		ピクシーダストテクノロジー株式会社	モーターレーシングの現場の「音」情報を聴覚障害のある方などにお届けするために、サーキットの音をリアルタイムに振動と光に変換して提供するデバイスを導入する。加えて、車載マイクの収録音を振動と光で届けるシステムのコンセプト検証を行う。
12. スーパーフォーミュラ搭載の人工自我の研究		東京大学	東京大学での「量子コンピュータ・量子ゲート」特許の基本原則を使い、人工自我をレーシングカーに搭載する。レーシングカーの感情を可視化し、障がいのある方を起点としたレースの新体験の創出に挑戦する。
13. 情報から誰一人取り残されないモータースポーツ観戦を目指す		岡山放送株式会社	30 年にわたりろう者と手話放送を制作してきた岡山放送が目指す、情報のバリアフリーに向けて①即時性②双方向③体感の 3 点から情報格差を解消し、障がいの有無に関わらず楽しめる環境を実現する。
14. 長期療養中のこども達に遠隔地レース観戦を楽しんでもらう		トヨタ自動車九州株式会社	福岡市立こども病院とレース会場とトヨタ自動車九州の工場見学用スタジオの 3 か所を繋ぎ、臨場感溢れるツアーを企画する。アバターロボやカメラの映像をこども病院の会場のスクリーンに投影する試みを実施する。
15. バリアフリー・トレーラーハウスの開発		株式会社アーキネット	燃焼式トイレや水循環システム、空調機を導入したオフグリッド型トレーラーハウスを、レースを観戦される障がい者向け専用トイレとして車椅子仕様で開発する。様々な環境へと運ぶことができるよう牽引免許不要で自走できる仕様を目指す。